

# アンケートにみる小学一年生の生活と意識



片岡 弘

はじめに

九六年に研究所は『新潟県の子育て百科—96にいがたの子ども白書』を刊行しましたが、その執筆過程(小学校の項)でも、最近の子ども、とりわけ一年生の変容が大きく問題視されました。ある教師は、一年生の子どもに対する感触を「エイリアン・パニック」と言い、「とにかく今までに出会ったことのない課題を背負った子どもたちだ」と表現しましたが、いったい一年生に何が起きているのでしょうか。

「小学一年生の総合的研究」に取り組むに当たり、問題へのアプローチを図るために、私たちは先ず一年生を担任している教師が子どもたちをどのようにみているのか知りたいと考え、現に一年生を担任している研究所の会員にアンケートを送り回答をお願いしました(九八年一〜三月実施)。回答してくださった方々は、何れも一年生を何回も担任されてきたいわゆるベテランの先生たちです。

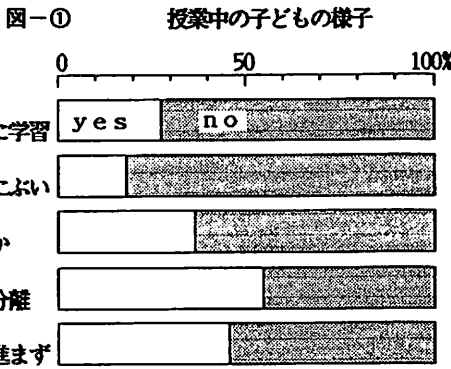
次に、担任が捉えた子どもの言動(行動)の背景を探る目的で、一年生の子ども個々を対象にした「生活の実態」と「学校や勉強に対する意識」調査をアンケート形式で実施しました(九八年七〜一〇月実施)。これも主として一年生担任の会員に調査への協力をお願いしました。回収できた有効サンプルは八学級、二三三人分です(但し、項目によっては無答や複数回答があつて回答数には若干の増減があります)。

以下その調査結果の一部を紹介し、若干の考察を試みたいと思います。

### 一、担任がみた一年生の実態

1、集中できる子とそうでない子の群に

図①で示したように、担任教師の三六%が、自分のクラスは「わいわい賑やかだがちゃんと学習している」(グラフでは「賑やか」と表示)という回答を寄せました。



もともとこの時期の子どもは思い切り自由に身体を動かし、それまでに培われた感性を惜し気もなく発散させて、能動的にものごとに関わかっていこうとする意欲と活動性を有しています。好奇心が旺盛です。

盛で何でも知りたがり屋だし、何でも「ぼくが、わたしが…」とやりたがり屋のはずなのです。

授業のなかでも、子どもたちはこの特性を発揮します。入門期の文字学習でも、たとえば「お」のつくことば集めで、一人が「おおさま」には「お」が二つ入っている、などと言いつつ、ほかの子も負けじとばかりに「お」が二つある単語探しを始めます。「おおかみ」「おおさん」「おにのかお」…そのうちに別の一人が、鬼の首でもとったように「大発見だ！ おおどおりに、お」が三つあるぞ！ などと叫びます。

このように一年生の授業が「わいわい賑やか」になるにはきわめて自然なものであり、それは子どもたちの学習(あるいは活動)意欲の発露なのです。

しかし一方、回答者の五五%は「授業に集中できない子とそうでない子の群に分かれている」(グラフでは「群・分離」と答え、しかもその八割(全体の四六%)にも当たる教師が「席を立つ子や私語する子が邪魔をして思うように授業がすすまない」(グラフでは「授業進まず」と回答しています。さすがに「毎日の授業が成立しない」という回答は皆無でしたが、先に述べた「わいわい賑やかだがちゃんと学習している」というクラスとは、明らかに

異なる様子の一年生のクラスが現出しているといえるでしょう。

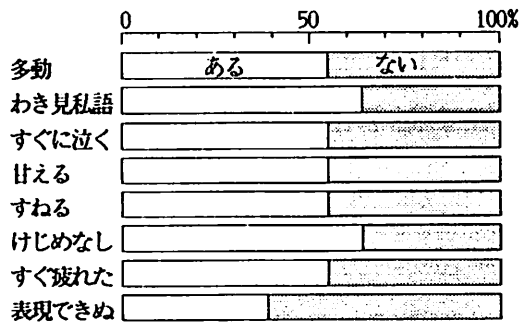
なお、「静かに学習している」「何となく反応がにぶく手ごたえがない」という回答がそれぞれ二七%、一八%ありました。いずれも一〇人前後の小規模クラスからの回答でした。

## 2、気になる子どもの言動

前項の、特に「席を立つ子や私語する子が邪魔をしようするように授業がすすまない」という現象が何に起因しているのかを探りたいと考え、担任として日ごろ「気になる子どもの言動」を挙げてもらいました。調査では一六項目の選択肢を設定しましたが、ここでは回答の多かった七項目を提示します(図一②)。

「落ち着きなく多動な子が多い」「わき見や私語をする子が多い」「言動(生活)にけじめがない」という回答が、それぞれ五五%、六四%、六四%を占めています。図には載せませんでしたが「授業中立ち歩く子がいる」という回答も二七%ありました。これらの行動は、授業を成立させる上での困難の直接の要因とみなされそうです。また、「ちょっとしたことですぐに泣き出す」「幼児

図一② 気になる子どもの言動



記述のいくつかを参考までに紹介しておきます。

◇親の生活が多様・多忙化しており(三交替勤務、離婚など)精神的に不安定になっている子が目立つ。

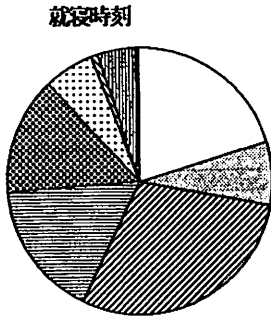
◇精神的に幼い。指示待ちが多く、自信が持てず、いつも他に気遣いしている子が増えている。

◇自分の思うようにいかない友達を蹴ったり、パUNCHを入れたり、不安だと一日中泣きつづける。

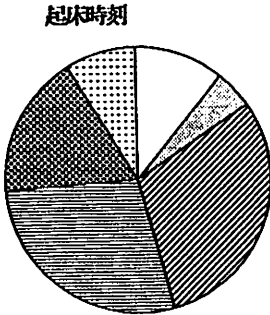
◇「自由保育」に問題はないか。

のようにベタベタ甘える」「すぐ拗ねてしまつ」「すぐに疲れたという」いずれも回答者の五五%が指摘しました。これらの言動はきわめて幼児的な特徴を示しています。アンケートに付記された自由

図一③



項目	名	%
8:00	43	20.1
8:30	17	8.0
9:00	62	29.8
9:30	36	16.8
10:00	30	14.0
10:30	13	6.1
11:00	2	0.9
11:30	11	5.1
合計	214	



項目	名	%
5:00	23	10.7
5:30	10	4.7
6:00	65	30.4
6:30	60	28.0
7:00	37	17.3
7:30	19	8.9
合計	214	

二、睡眠不足はテレビのせい？

—子どもの生活実態調査から—

1、就寝・起床時刻と睡眠時間の調査から

図一③は、子どもたちの就寝時刻と起床時刻を三〇分単位でくぎって表したグラフです。

まず、就寝時刻ですが、一年生担任経験者を交えた

研究スタッフの会議では、一年生は八時半には就寝させて欲しいというのが一致した意見でした。しかし、この調査では、八時半までに就寝した者は全体の二八%です。家庭の諸事情を勘案して九時がぎりぎりの許容範囲だとしても、九時までの就寝者は全体の五七%にすぎません。さらに問題なのは一〇時以降の就寝が二六%にも上ることでしょう。

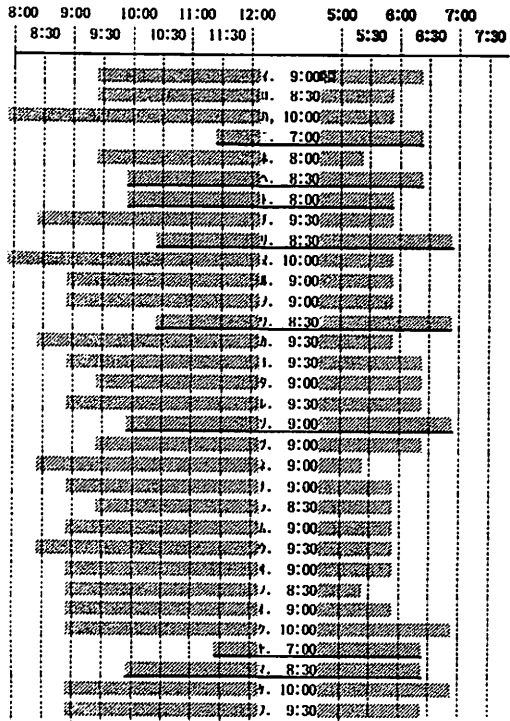
起床時刻での問題は、七時以降の起床が二六%を占めていることです。学校の始業時刻と通学時間を考えて逆算したら、少なくとも七時半には家を出なければなりません。着替え、洗顔、排便、朝食をきちんと済ませることは不可能です。それにしても夜一〇時

以降の就寝二六%と、朝七時以降の起床二六%は奇しくも一致するパーセンテージです。

図一④は、あるクラス三二人(イ)この個人別就寝・起床時刻と就寝時間を表したものです。グラフの下線を引いたケースが一〇時以降の就寝(クラスの二五%)ですが、その平均睡眠時間は八・一三時間です。それに対して九時以前に就寝した者(同五六%)

図-④

◇就寝・起床時刻・就寝時間



の平均睡眠時間は九・三六時間になります。つまり登校ということがありますから、遅く寝ても朝は一定の時刻には起きなければならず、単純に言えば遅くまで起きていた分だけの時間、睡眠時間が減るということになります。朝六時半以前に起床したという子が二十七人(八・四%)いますが、そのうちの九人(二八%)は七時間から八時間半の睡眠しかとっていません(一・時半就寝、六時半起床が二人。睡眠時間は七時間)。六時半

に起きなければ登校時間に遅れるからまだ眠いのだけれども起こされるケース、あるいは母親の出勤の都合で同様におこされるケースなどが考えられます。

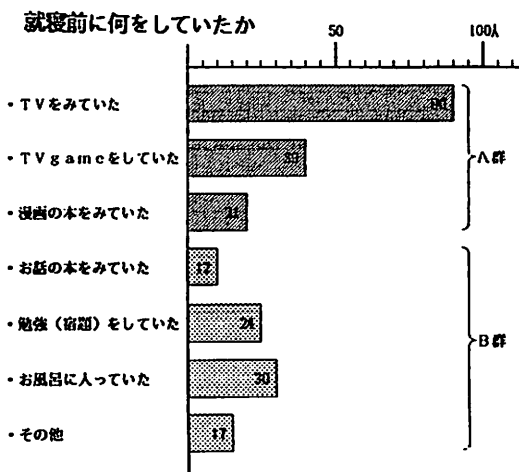
2、就寝前に何をしていたか

「夕飯を家族いっしょに食べるのがだいじだから、父親の帰宅まで子どもを待たせておく。通常九時頃になる」という母親がいたといいますが、これはひどすぎます。こういう例はごく稀だと考えてよいでしょう。とすれば、なぜ早く寝ない子どもたちが多いのでしょうか。

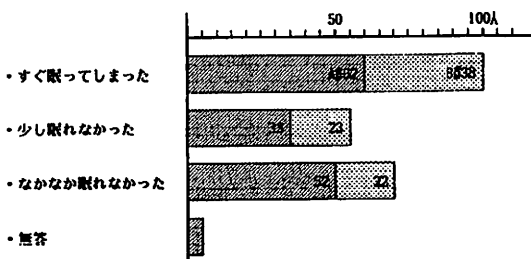
図-⑤は、

就寝前に何をしていたかを尋ねた結果です。「テレビをみていた」という回答が予想通りもつとも多く三八・六%を占めています。次いで「テレビゲームをしていた」が一六・七%、この二つに「漫画の本をみていた」(九・〇%)を加えると、六四・七%(二五〇人)になります。他のデータとクロスして考察したいので、この一五〇人をA群としておきます。同様に「お話の本(絵本)を読んでいた」「勉強(宿題)していた」「その

図一⑤



図一⑥ 床についてすぐ眠れたか



他「八三人(三五・六%)をB群とします。

3、床に入ってもすぐに眠れない子

図一⑥は、「床に入ってからすぐに眠れたか」という問いに三つの選択肢で答えてもらった結果です。「すぐに眠ってしまっただ」という寝つきの子は四二・九%(一〇〇人)です。それに対して「少し眠れなかった」が二四・〇%(五六人)「なかなか眠れなかった」が三一・八%(七

四人)を占めました。

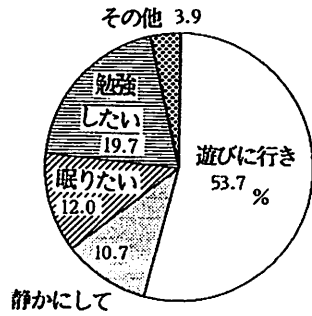
このそれぞれの回答について、前項のデータとクロスして考えてみると、興味深い結果がみえてきます。「少しねむれなかった」と答えた五六人のうちの五八・九%(三三人)が、また「なかなか眠れなかった」と答えた七四人のうちの七二・二%(五二人)が、いずれもA群つまり、寝る前に「テレビをみていた」などの群の子たちです。テレビ視聴やゲームによる大脳の興奮が床に入ってもすぐには治まらず、眠ってもレム睡眠(夢をみる状態の眠り)がつづくと思われまます。朝方になってようやく深く深い眠り(ノンレム睡眠)が訪れたときは、もうすでに「起こされる」時刻なのです。

4、学校で「できれば眠りたいの」

子どもたちが、現にアンケートに答えてもらっているその時点で「いま、何をしたいか」答えてもらいました。図一⑦がその回答結果です。

ほぼ一単位時間拘束されて、面白くもない調査に付き合わされているのですか

図一⑦ 今、何がしたい？



ら「遊びにいきたい」という二五人(五三・七%)「勉強したい」という四六人(二九・七%)は一年生としては至極正常な反応だろうと思います。それに対して「このまま

静かにしていたい」「できれば眠りたい」と、全体の二二・七%にあたる五三人が回答しました。睡眠に関する前項の調査結果を考え合わせると、無視できない問題が潜んでいると思われる。

なお、回答のうちの「その他」には「おうちに帰りたい」というのが三割含まれていました。

### 三、大半は「学校大好き」というのだが…

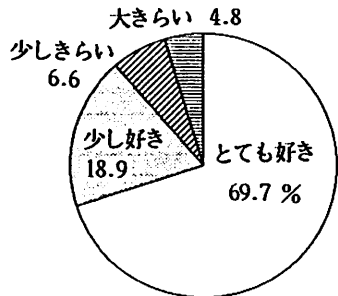
#### — 学校や授業についての意識調査から —

1、学校、好きな理由は「友だち」が一位

図一⑧は、「学校が好きか」という問いに対する回答です。いろいろあっても、六九・七%の子が「とても好き」、

一八・九%の子が「少し好き」と答えています。好きな理由も尋ねてみました。(複数回答)。  
 ・ 友だちと遊べる…一四四人(六三・二%)

図一⑧ 学校は好きか

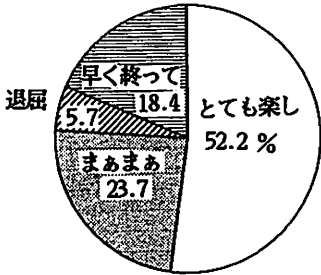


・ 給食が楽しい…一〇二人(四四・七%)  
 ・ 勉強が楽しい…九五人(四一・七%)  
 ・ 遊ぶ場所がある…八三人(三六・四%)  
 ・ 先生が好き…七九人(三四・七%)  
 ・ その他…二人(〇・九%)

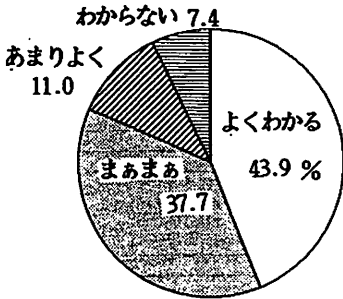
それに対して、「大きらい」「少しきらい」(合わせて一・四%)と答えた子の理由は次のようです。

- ・ いじめられる…一一人(四・八%)
- ・ 勉強が難しい…七人(三・二%)
- ・ 先生がきつい…五人(二・二%)
- ・ 運動がきらい…五人(二・二%)
- ・ その他…二人(〇・九%)

図一⑨ 授業中の気持ち



図一⑩ 学校の勉強はわかるか



六割を越す子が、「学校が好き」の理由に「友だちと遊べる」からと答えています。逆に「学校が嫌い」という子の「嫌い」な理由のトップは「(友だちに)いじめられるから」です。子どもにとって学校の友だち(同じクラスの子どもたち)がいかに大事な存在であるかを端的に示しています。また、学校が好きな理由として挙げた「勉強…」「遊ぶ場所…」「先生…」が、そのまま、嫌いな理由のフアクターとしても挙げられていることに注目しなければなりません。

2、授業はたのしいか

一年生の子どもたちは、毎日どんな気持ちで授業に臨んでいるのでしょうか。図一⑨を見てください。授

業が「とても楽しい」(二一九人)「まあまあ楽しい」(五四人)という回答が合わせて七五・九%を占めました。残りの二四・一%の子は「退屈でつまらない」(二三人)「早くこの時間が終わらないかと思っている」(四二人)と答えています。

図一10は、「学校での勉強がわかるか」の設問に対する答えです。「わかる」という回答は四三・九%(二〇〇人)「まあまあわかる」が三七・七%(八六人)でした。一方、「あまりよくわからない」「わからないことが多い」という回答は合わせて四二人、一八・四%を占めました。

このパーセンテージは、授業中に「早くこの時間が終わらないか」と思っている」と答えた子が占めるパーセンテージと同率です。四〇人学級で考えれば、七・四人とい

うことになりましたが、「授業がわからない」子がどんな思いで毎日の授業の時間を過ごしているかを推し量ることができません。

以上はこれまでの調査結果の一部です。さらに分野を広げて調査し、一年生の子どもたちをとりまく問題状況を明らかにしたいと考えています。

(かたおかひろし・研究所員)